

高齢者の口腔と摂食嚥下の機能維持・向上のための取組に関する調査（概要）

厚生労働省 政策統括官付政策評価官室 アフターサービス推進室

1. 調査の目的

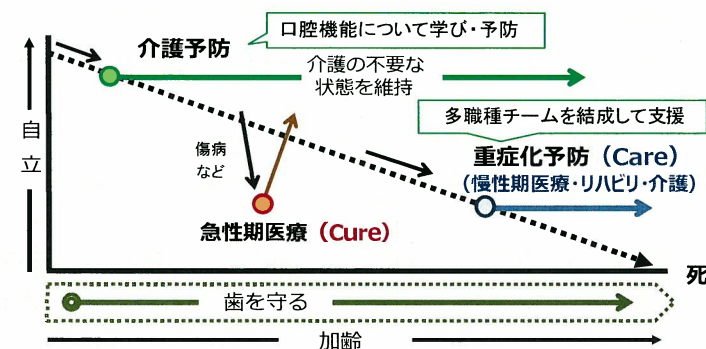
5つの自治体における取組を調査し、他の自治体関係者や国民へ課題解決に向けた手掛かりを提供

《調査先》東京都大田区、同新宿区、千葉県柏市、富山県南砺市、岡山県鏡野町

2. 調査のまとめ

- (1) 高齢者の自立度の低下(右点線を参照)が緩やかとなるよう、介護予防事業で口腔機能等の重要性和予防方法について学ぶ機会を提供
- (2) 自治体が主導して、重症化予防のために在宅の要介護高齢者や介護保険施設入所者へ歯科医療サービスの提供体制を構築
- (3) 多職種の専門職が「食べること」の支援ネットワークを構築できるよう、連携ツールや地域研修会を通じて支援に伴う課題とノウハウを共有

高齢者の自立度の変化に応じた専門職の取組の位置付け



調査先の自治体における取組

(1) 介護予防事業としての取組

～口腔機能について学び・予防する～

①効果的な介護予防講座・教室の開催

講座や教室で口腔と摂食嚥下の重要性を学び、在宅でも継続して介護予防に取り組めるプログラム提供

鏡野町：生きいき教室での玩具を使った「健口体操」



②地域サポーターの養成

市民サポーターが講座・教室の運営を担い、参加意識を高め、お互いを支え合う仕組み

柏市：フレイルチェック講座で活動用Tシャツ姿のサポーター



(2) 重症化予防のための取組

～多職種チームを結成して支援する～

①在宅における口腔と摂食嚥下の機能支援

自治体と歯科医師会が連携し、セーフティネット事業として在宅歯科診療等を提供

新宿区：歯科医師と歯科衛生士による在宅医療



②介護保険施設における多職種チームの支援

多職種※がチームを結成し、入所者の障害の状況、原因と改善策を分析して、支援計画を策定

大田区：多職種チームによる入所者の摂食嚥下機能の評価



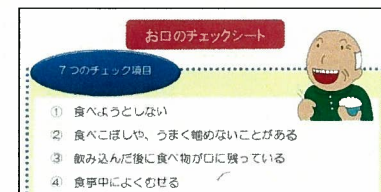
(※歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士など)

(3) 地域における支援の仕組みづくり

①連携ツールの作成と活用

連携ツールの活用で機能低下の兆候を捉え、身近な拠点の専門職に相談

柏市：チェック表(抜粋)を連携ツールとして活用



②地域におけるネットワークづくり

多職種対象の研修会を通じて課題とノウハウを共有し、互いに「顔の見える」関係のネットワークを構築

南砺市：南砺市民病院での地域リハビリテーション研修会の開催

